

第9期

事業報告書
決算報告書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

公益財団法人 復 康 会

令和2年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1 ページ
II. 事業活動	1
III. 理事会・評議員会の開催	3
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	5
[2] 精神保健相談・健康相談活動	5
[3] 研究発表	6
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	8
[鷹岡病院グループ]	13
[沼津リハビリテーション病院グループ]	16
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	18
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	23
[2] 嘱託医の受託	24
[3] 実習病院の受託	24
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	25
[5] 関連諸団体の活動	26
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	26
[7] 受託事業	29
VIII. 職員配置状況	30

I-III 事業報告

I. 今期の概況

令和 2（2020）年度は、年間を通じて新型コロナウイルスの感染の波に翻弄されてきた。現在も、全世界的に、コロナウイルスの変異種による感染拡大が続き、死者も増加の一途をたどっている。年度末になり、ようやく医療従事者にコロナワクチンの先行接種が始まり、令和 3 年度の 4 月になって当法人職員へのワクチン接種もスタートした。年度中に、沼津中央病院で入院患者 1 名の COVID-19 陽性が発覚したものの、平時からの準備と、事態発生時の迅速かつ的確な対応により善処され、幸いこの 1 年間、法人組織でクラスターが発生することなく事業運営が出来た。この成果は、法人職員が公私に渡りコロナ感染対策を実践してくれた結果である。次年度も引き続きコロナ感染対策は実施せざるを得ず、緊張の日々は続くと思われる。

今期法人の事業運営に関しては、専門医療の質の確保への努力が各組織で着実に実践され、精神科救急医療体制における常時対応施設としての機能、災害拠点病院機能、専門医養成基幹病院機能は十分に機能を発揮し、多職種の医療従事者育成のため実習生を受け入れる努力も継続的に実施され、地域医療の充実に多大な貢献をしてきた。しかし経営安定に関しては、今期も黒字化は達成できず、経営に責任のある立場の者として、誠に申し訳ないと思っている。

特に鷹岡病院においては、A 棟（救急入院料病棟）の稼働に関して、人的要因の関係で 48 床運用の予定が 12 月によりやく 45 床となり、現在は 40 床以上の稼働状況となっている。今後は B 棟（療養）の運用、要するに空床を減少させていく運用が、重要な課題であり、医局の取り組みも活発化していることと、職員全体に課題への取り組みが認められるので、次年度は事業計画達成への期待が持てる。

なお特記事項として、厚生労働省の「医道審議会 医師分科会、精神保健指定医資格審査部会」の臨時委員として、理事長の石田多嘉子が指定医の審査に当たった。

更に、厚生労働省が年度中に開催した有識者会議「精神科救急医療体制整備に係るワーキンググループ」に、沼津中央病院の杉山直也院長が日本精神科救急学会理事長の立場で構成員として参加した。

重点項目 1 「収益力の強化、事業計画の確実な達成、無駄な支出の削減」

概況のとおり未達成。

重点項目 2 「人材確保の努力（必要な人材確保のための法人からの情報発信の工夫）、適正な人材配置のための法人内での協力体制の構築」

法人内での協力体制の構築に関しては、不十分ながらも進展が見られた。

重点項目 3 「利用者の「生きたい人生」を実現するための医療及び福祉の提供」

今までも医療の根幹にあるものとして、達成の努力をしてきたし、今後も継続していく。

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業

・沼津中央病院

県の精神科救急医療体制整備事業にて指定されている常時対応施設と休日夜間電話相談の役割については、例年同様県下最大の実績を上げ、その活動は十分であった。また、多様化する精神科医療ニーズに対応すべく、専門プログラムや各種の先進的な取り組みを継続的に推進した。長期入院者が地域で生活するための基盤整備として、セジュール新大橋をはじめ、法人内グループホーム等を有効的に活用したほか、訪問看護ステーションが特筆すべき活動実績を上げた。

・鷹岡病院

認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じての情報発信を行った。医療連携協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、関係機関からの意見をアンケート形式で確認し、書面開催とした。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。

- ・沼津リハビリテーション病院
回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。
- ② 障害福祉サービス事業
 - ・社会復帰施設
障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。
- ③ 介護サービス事業
 - ・通所リハビリテーション
感染対策に配慮しながら、サービス提供を継続した。
 - ・訪問看護ステーション
感染防止に細心の注意を払いながら地域における関係機関との連携に努め、自宅での看取りなどの希望にも可能な限り対応した。5人の看護職員により24時間緊急対応を継続した。また、今年度小児の訪問も実施した。
- ④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業
 - ・沼津中央病院
精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成については、2名が登録中であり、次年度には4名となる予定。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。
 - ・鷹岡病院
初期研修医及び看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士・公認心理師の各実習生を受入れた。
 - ・沼津リハビリテーション病院
大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。
- ⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業
 - ・沼津中央病院
専門上位資格取得では、指定医について、コロナ禍で審査が停滞しており、レポート提出までを行った。種々の厚生労働科学研究に協力し、個々の学術活動も継続された。
 - ・鷹岡病院
摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。
 - ・沼津リハビリテーション病院
今年度新たに当院を含む5医療機関において感染対策にかかる地域連携協定を締結、合同カンファレンスや認定看護師による指導の機会を得ることができた。
- ⑥ 無料相談、助言事業
 - ・院内無料精神保健相談
沼津中央病院、大手町クリニック、あたみ中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。
 - ・助言事業
静岡県から委託を受け、駿東田方圏域自立支援協議会への専門的な見地から課題解決に向けた取り組みや技術的助言等を行う圏域スーパーバイザー設置事業を行い、駿東田方圏域自立支援協議会の活動・運営に貢献した。
- ⑦ 保健福祉普及のための啓発事業
 - ・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。
 - ・社会復帰事業部では、沼津市、富士市、伊豆の国市、長泉町からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

- ・ 特別の療養環境の提供に関する事業
より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。
- ・ 日常の支援に関する事業
入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。
- ・ 不動産賃貸業
病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

- ・ 福利厚生事業
ウィスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、令和2年度はコロナの影響もあり、利用者はいなかった。

III. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第38回 理事会	R2.5.28	理事 8名 監事 2名	1. 令和元年度事業報告(案)について 2. 令和元年度決算報告(案)について 3. 準職員就業規則 改正(案)について 4. 徴収不能損失について 5. 評議員、理事及び監事候補者の選出について 6. 定時評議員会の招集(案)について 報告事項 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
第17回 評議員会	R2.6.25	評議員 6名 監事 2名	1. 令和元年度事業報告(案)について 2. 令和元年度決算報告(案)について 3. 評議員選任について 4. 理事及び監事の選任について
第39回 理事会	R2.6.25	理事 7名 監事 2名	1. 理事長、常務理事及び業務執行理事の選定について
第40回 理事会	R2.12.17	理事 7名 監事 1名	1. 令和2年度第1次補正予算(案)について 2. 特別職の定年延長について 3. ホームページ委員会規程について 4. 勘定科目の見直しについて ① 「仮払金」の変更について ② 「雑給」の取り扱いについて ③ 「交流費」に係る補助科目について 5. 給与規程別表4の改訂及び改定に伴う新職制図について 6. 時間単位の休暇取得について 7. 職場別、勤務時間割表の一部改訂について

			報告事項 ① 理事長常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について ② 賞与引当金処理に関する事故報告
第 41 回 理事会	R3.3.25	理事 8 名 監事 2 名	1. 令和 2 年度第 2 次補正予算（案）について 2. 令和 3 年度事業計画（案）について 3. 令和 3 年度予算（案）について 4. 給与規程の一部改訂について 5. 給与規程の一部改訂に伴う就業規則第 21 条、第 23 条の一部改訂について 6. 社会福祉法人信愛会との土地貸借関係について （ア） 地上権設定契約についての確認書について （イ） 土地使用貸借契約書について

以上

Ⅳ. 活動報告

〔１〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	19,174	505	0	19,679	157,626	
外来	延人数	1,142	14,403	0	15,545	119,291	
計		20,316	14,908	0	35,224	276,917	12.7%

〔２〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼 津 中 央 病 院	年 1 回	精神保健福祉総合相談	野 地 貴	静岡県東部健康福祉センター
	年 1 回	〃	田 村 元	〃
	年 1 回	〃	梶 本 光 要	静岡県熱海健康福祉センター
	年 1 回	〃	神 野 恭 輔	〃
	年 1 回	〃	奥 義 起	〃
	年 12 回	沼津市子育てママの相談事業	久野満津代	沼津市保健センター
鷹 岡 病 院	年 12 回	富士市職員メンタルヘルス相談	石田多嘉子	富士市役所
	年 2 回	精神保健福祉総合相談	高 木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年 2 回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	随 時	教職員面接指導	〃	富士市教育委員会
	随 時	健康相談・面接指導	〃	富士地域産業保健センター
	年 9 回	ストレス相談	久保伸年	富士市保健部健康対策課
	年 6 回	〃	鈴木順一	〃
	年 3 回	県立職業訓練校精神保健福祉相談	水野拓二	静岡県経済産業部
社 会 復 帰 事 業 部	年 6 回	伊豆市サテライト相談会	池田友美	伊豆市
	年 12 回	沼津市障害者専門相談会	内藤治子	沼津市社会福祉協議会

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼 津 中 央 病 院		24	58	57	43	49	50	58	27	43	36	36	45	526
大 手 町 ク リ ニ ッ ク		538	603	556	719	692	606	717	674	636	624	549	643	7,557
あ た み 中 央 ク リ ニ ッ ク		110	81	84	73	64	73	85	69	88	92	98	85	1,112
鷹 岡 病 院		37	68	47	51	84	63	89	71	42	70	58	115	795
富 士 メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク		25	40	39	49	55	63	60	59	54	60	62	67	633

〔3〕 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 塩澤拓亮, 藤井千代, 阿部真貴子, 平田豊明, 兼行浩史, 野田寿恵, 奥村泰之, 杉山直也: 精神科救急医療ニーズの多様化に向けた医療の質向上と医療提供体制の最適化に資する研究. 第 28 回日本精神科救急学会学術総会, 2020. 10. 9, 高知 (WEB 開催)
2. 橋本聡, 日野耕介, 井上幸代, 兼久雅之, 河寫讓, 北元健, 五明佐也香, 庄野昌博, 杉山直也, 山下建昭: 精神科高規格病棟は地域救急医療の円滑化に寄与するか?. 第 33 回日本総合病院精神医学会, 2020. 11. 20-21, (WEB 開催)
3. 橋本聡, 日野耕介, 井上幸代, 兼久雅之, 五明佐也香, 河寫讓, 北元健, 来住由樹, 山下建昭, 杉山直也: 全国消防本部対象の搬送困難事例調査から見える精神・一般救急医療連携の最適解とは. シンポジウム 84「精神・一般救急医療連携～地域における実践からその先を考える～」第 116 回日本精神神経学会学術総会, 2020. 9. 30, 仙台 (WEB 開催)
4. 杉山直也: 指定発言. シンポジウム 84「精神・一般救急医療連携～地域における実践からその先を考える～」. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 2020. 9. 30, 仙台 (WEB 開催)
5. 杉山直也: 医療資源とニーズの相応性について～科研成果等より. シンポジウム 2「精神科救急と高規格病棟～現状とあり方、その役割について～」第 28 回日本精神科救急学会学術総会, 2020. 10. 9, 高知 (WEB 開催)

鷹岡病院

1. 川村明広: 地域に出たことでの気づき ～認知症初期集中支援チームでの支援活動を通して～. 第 33 回静岡県作業療法学会, 2020. 6. 21
2. 小山隆太: 病棟再編からみえてきたこと～支援の「ぶつ切り」「滞り」が発生しない仕組みづくり～. 第 9 回静岡県ソーシャルワーク実践研究学会, 2021. 2. 6

② 研究論文・総説・著書発表

沼津中央病院

1. 宮崎秀仁, 長谷川花, 野田寿恵, 澤野文彦, 杉山直也: 自殺行動と関連する要因について. 精神科救急患者レジストリを用いた臨床特徴の解析. 精神医学 62(8), 1149-1158, 2020
2. 杉山直也: 精神科救急医療と地域包括ケアシステム. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き (2019 年版), 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業, (株)日本能率協会総合研究所
3. 杉山直也: 措置入院に係る診療ガイドライン 2020 年版. 一般社団法人日本精神科救急学会, 2020
4. 長谷川花, 杉山直也: 電子カルテの現状と将来～民間病院の立場から. 日精協誌, 39(5), 431-435, 2020
5. 杉山直也, 平田豊明, 塚本哲司, 佐藤雅美, 八田耕太郎, 大塚耕太郎: 精神科救急医療ガイドライン 2015 年版. 精神医学, 62 (増大号), 758-763, 2020

6. 杉山直也, 河西千秋, 大塚耕太郎: 精神科救急における自殺予防活動～日本精神科救急学会の理念と取り組み～. 自殺予防と危機介入, 40(2), 30-35, 2020
7. 石井美緒, 長谷川花, 杉山直也: 精神科救急における意思決定支援と共同意思決定 (SDM). 精神医学, 10, 1319-1325, 2020
8. 杉山直也: 精神科救急入院料および精神科急性期治療病棟の現状と改定の影響. 特集 令和2年度診療報酬改定ー現状とその影響. 日精協誌, 39(10), 993-998, 2020
9. 杉山直也, 長谷川花, 澤野文彦, 久野美津代, 北館美沙依, 内田裕之: 沼津中央病院の取り組みー措置入院者の地域包括支援の在り方. 特集: 措置入院者等の退院後支援の展開. 保健師ジャーナル 76(10), 834-839, 2020

V. 医療活動

〔 沼津中央病院グループ 〕

1. 概要

令和2年度はCOVID-19のパンデミックにより、年度を通じて異例となった。沼津中央病院グループでは、すべての職員が、法人の基本理念を日々の業務の中で意識しながら従事できるよう、第3次中長期計画(平成25(2013)年～30(2018)年3月)において、「愛・信頼・貢献」の3標語を基調とした運営方針及び重点目標を掲げた。現行の第4次中長期計画(平成30(2018)年～令和5(2023)年3月)では、次なる段階として、新鮮で鮮明、印象深く時代に見合う表現を用いて、基本理念の実現に向け取り組んでいる。現在は5か年計画のうち3年が経過した時期で、目標に向けた組織的な取り組みが順調に進んでいる。令和2(2020)年度は、入院患者1名のCOVID-19陽性が発覚したものの、秀逸なる職員諸氏の平時からの準備と、事態発生時のすべての面における迅速かつ的確な対応により、クラスター形成なく善処でき、病院のダメージを最小限に抑えることができた。総括的には、従来強化して取り組んでいる人材の育成と対応力の向上、経費削減、精神科救急医療の実践、多様な精神疾患への対応、退院支援の強化などが良好に成され、世間のコロナ禍にもかかわらず収益面の実績を得た。

特記事項として、厚生労働省が開催した「精神科救急医療体制整備に係るワーキンググループ」に、杉山直也院長が日本精神科救急学会理事長の立場で構成員として参加した。

運営方針

「地域のトップランナーとして、自立促進のケア理念に立脚し、包括的で良質な医療サービスを提供するとともに、時代の要請に応えるべく、優良な医療・保健・福祉人材を育成し、機能的で美しく、魅力的で力強くかつ謙虚で親身な組織づくりを追求する。」

重点目標

1. 人材の育成と対応力の強化

- 1) 活気があり、雰囲気良く、業務経験機会があり、指導体制が整い、労働条件が良好な職場を実現し、好人材を引き寄せる魅力ある病院を目指す。
- 2) 働き方改革の中で、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境を実現する。
- 4) 職域に応じて、各個人が標準化されたスキルを体得し、自ら専門性を高め、その特性長所を活かすとともに、特性課題の克服にもつながるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

2. 医療サービス向上

- 1) 地域生活を見据えたケア提供をめざし、切れ目のない包括的なサービス体制を構築する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) あくまで自立促進に立脚し、当事者の権利と可能性を追求した治療理念を基本としたケアを提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、試行や検証等の専門研究的視点を重視し、より確かなエビデンスに基づいたサービスの提供を目指す。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療におけるトップランナーの自覚を保ち、気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。
- 2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

4. 時代に対応できる経営戦略

- 1) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的な病院経営を実現する。
- 2) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念をもって取り組む。
- 3) 目標達成のための必要業務数値を各従事者個々人が明確に意識し、ともに協力して無理なく達成できるよう準備し、組織によって取り組む。

● 事業所ごとの活動

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山直也
- ②病床数 270 床
- ③所在地 沼津市中瀬町 24 番 1 号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理等：精神科救急入院料Ⅰ、精神科療養病棟入院料、精神病棟入院基本料 15:1、看護補助加算 1、精神科ショートケア（大規模）、精神科デイケア（大規模）、精神科ナイトケア、精神科デイナイトケア、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、指定通院医療機関、日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0）

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・県の精神科救急医療体制整備事業にて指定されている常時対応施設と休日夜間電話相談の役割については、例年同様県下最大の実績を上げ、その活動は十分であった。
- ・長期入院者が地域で生活できるための基盤整備として、セジュール新大橋をはじめ、法人内グループホーム等を有効的に活用した。
- ・地方公共団体による退院支援への対応については、制度に則り、昨年度より多数の症例に対応した。
- ・法人としてピアサポーターの雇用を開始後、治療の一環として、ピアサポーターが定期的に病棟に来訪活動することが定着したため、今後病院としてピアスタッフの雇用を目指していく。
- ・外来診療では、コロナ禍の影響が大きく、目標数に至らず、検査実施も十分ではなかった。
- ・訪問看護については十分に充実した活動実績を上げた。アウトリーチについては制度上の制約があり別目標としていく。

(イ) 多様性への対応

- ・児童思春期精神科診療（浜松医科大学、横浜市立大学との連携）は、非常勤医師の体調不良にて危機を迎えたが、連携努力にて支障をきたすことなく、例年通り順調に診療継続した。
- ・圏域内総合診療（圏域内地域支援病院等との診療連携 医療連携室機能の発揮）については、個々のケースでの課題はあるものの、概ね良好な関係を維持している。
- ・治療プログラムの「ぬま〜ぶ、リワーク、摂食障害、心理教育、 協働意思決定（SDM: Shared Decision Making）、フリートークの会（ピア活動）などについては、概ね良好に取り組むことができた。認知機能リハビリテーションは次年度に試みたい。
- ・クロザリルについては、しばらく適応患者が現れなかったが、新規導入を含め積極的に活用した。
- ・修正型電気痙攣療法（m-ECT）については、週 2 日間の実施日を十分に活用し良好な治療成果を得ている。
- ・隔離・身体拘束最小化については、早期作業療法の開始に加速的効果が得られ、次年度に向けて「拘束ゼロプロジェクト」を立ち上げた。
- ・精神療法については、増加に向けてさらなる充実を目指していきたい。
- ・薬剤管理指導については昨年度より件数が増加し充実した活動ができた。
- ・栄養指導については、外来患者及び入院患者共に昨年度より件数が増加し、クリニックなどへも活動範囲を広げている。
- ・準急性期（3～12 か月）のアセスメント方法の確立については進展がなく、次年度への継続的課題である。
- ・LEAP の実践は、LAI 使用に制限があり実践できなかった。次年度の継続的課題である。
- ・急性期パスの導入については活用に至っていないため、次年度への継続的課題である。
- ・災害派遣精神医療チーム（DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team）については、先遣隊登録を行った。しかしコロナ禍で県の活動は停滞している。
- ・災害対策会議の下部組織として、防災委員会と横並びで災害対策委員会を設置した。
- ・BCPを策定し、静岡県より災害拠点精神科病院の指定を受けた。
- ・高齢化をみすえた身体管理技術の向上については、通常診療の中で日々取り組み診療力高めている。
- ・ショート、デイ、ナイトケア、OTのサービスを再編し、早期作業療法 P i c o t（ピコット）を開始、リハビ

リテーション実施総数の増加によりサービス向上を実現した。

(ウ) 確かなエビデンスに基づく業務実践

- ・厚生労働科学研究に十分に協力し、本務と両立、好影響を実現している。
- ・職域ごと（医師、薬剤師、看護師、精神保健福祉士、医事等）で外部での実践報告などに取り組んだが、報告までには至らなかった部署もあった。
- ・薬剤使用（処方）状況の把握と評価は例年通り行った。
- ・レジストリの活用に関する外部発表として、1件の研究成果が公表された。

(エ) 人材育成と強化、活用

- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク）の標準化を推進し、100%受講には届かなかったものの、高い意識で体得を心がけている。
- ・医療法、診療報酬に基づく義務研修（リスク、感染、行動制限最小化等）の開催は、コロナ禍の中、ICT利用の新システムにより、質の高い研修を効率的かつ安全に実施した。
- ・専門上位資格取得では、指定医について、コロナ禍で審査が停滞しており、レポート提出までを行った。
- ・精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成については、2名が登録中であり、次年度には4名となる予定。
- ・研修実態の把握及び外部研修の適正な評価は、十分に行えるまでには至らなかった。
- ・ボランティアについては、例年通り受け入れ活動を行った。
- ・高パフォーマンスを実践し得る専門的人材の育成は、人員不足により十分には行えなかった。目標水準を下げる必要がある。

施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・病棟を含めた修繕については、漸次実施した。
- ・人材獲得により、自立性は格段に向上した。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・光庭（中庭）の整備については、未着手であるため次年度以降に検討する。
- ・待合・ラウンジ周りの展示物適正管理部門の明確化を十分に行うことができなかった。
- ・節電のみならず、物品購入等に対してのコスト意識が院内全体に向上した。

地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請については、例年通り行うことができた。
- ・例年通り、大学、看護学校等への講師派遣を実践している。
- ・実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献については、千葉大建築学部との連携を行った。

その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・電子カルテシステムを継続的に機能向上させるためには、業者の対応が不十分であるため、次年度も積極的に働きかけていく必要がある。
- ・人工知能（AI）活用については、未着手であったため次年度に検討する。

(ケ) 広報活動

- ・ホームページの適時更新及び活用については、法人本部管理であるため一部、タイムリーな更新ができなかった。

(コ) 特記事項

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染対策（レベル別感染対策、陽性者対応（ゾーニング）、COVID-19 チーム結成、FICT-P立ち上げ準備）について、感染チームの活躍が大きかった。平時の対策活動は活発で、事例発生時の初動、介入、連携、組織的動き、事後対応で迅速、的確に実践した。
- ・入念な準備のもと、日本医療機能評価機構の再受審を受け、5回目の認定更新をした。
- ・病棟の観察カメラをアナログからデジタルに更新した。

2. 大手町クリニック

基本情報

- ① 管理者 志澤 容一郎
- ②所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③診療科 精神科・心療内科
- ④主な届け出受理事 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

医療活動

入院・退院前後の中央病院との連携、退院時共同指導により、外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供ができた。また、新型コロナウイルス対策として、換気時間の設定や消毒の徹底などにより、安心して医療を受けられる環境、そして提供できる体制の整備を図った。

施設設備の整備計画

コロナ禍での診療環境の改善のためにパーテーション工事を実施した。またビルの管理者と相談のもとエアコン修理も実施した。次年度も継続して改善に努めていく。

地域貢献活動

コロナ禍での制約はあったが、ケア会議への出席や行政への協力など積極的に行った。

3. あたみ中央クリニック

基本情報

- ① 管理者 野田 寿恵
- ② 所在地 熱海市田原本町9-1 熱海第一ビル2F 代表 0557-83-7707
- ③ 診療科 精神科・心療内科

医療・地域貢献活動

目標患者数には至らなかったが、地域ニーズを担い、スマートな医療体制を目指し、サポートセンターいとうと連携して、患者の地域福祉サービスの導入を図った。高齢者に対しては、長谷川式認知症スケールの初診時及び定期実施により、早期認知症の診断に努め、高齢者施設職員との連携も図った。またBPSDの薬物調整スキルアップを図り、積極的に治療の安全性を高めた。勉強会・研修会については、計画を立て実施した。社会復帰関連施設見学については未実施であるため、次年度に再度検討していく。

地域貢献活動

コロナ禍での制約はあったが、地域精神保健活動に積極的に協力した。

4. 訪問看護ステーションふじみ

- ①管理者 飯塚 香織
- ②所在地 沼津市中瀬町24番1号 代表 055-931-5223

医療活動

関係機関との他職種協働と連携強化を図り、自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護を提供した。またグループ医療機関のみならず他の医療機関との連携により利用者数の増加に努めた。職員に対しては、コロナ

禍で外部研修への参加ができなかったものの、中央病院のＩＣＴ利用の新システムによる研修に参加することでスキルアップに取り組んだ。

また、地域貢献活動としては、ケース会議や退院カンファレンスへの参加などで情報提供を図り地域のケアチームの一員としてその役割を十分に果たした。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中１日当たり
沼津中央病院	237	619	615	241	90,543	248.1

入院・外来取扱患者数

(定床：270 床)

	入 院		外 来		デイケア 作業療法（外来の み）		一般外来計	
	期中延	１日当	期中延	１日当	期中延	１日当	期中延	１日当
沼津中央病院	90,543	248.1	15,141	51.7	10,961	42.3	26,102	93.9
大手町クリニック			20,053	82.2	4,317	20.1	24,370	102.2
あたみ中央クリニック			8,129	33.6			8,129	33.6

	訪問看護		作業療法（再掲）	
	期中延	１日当	期中延	１日当
沼津中央病院			17,137	71.7
訪問看護ステーションふじみ	7,243	24.6		

以上

V. 医療活動

〔 鷹岡病院グループ 〕

1. 概要

令和2年度は、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」「地域の医療機関・社会資源との更なる連携」「人材の育成・確保」「多様な精神疾患への対応」「災害対策の更なる推進」と定め、取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ①管理者：高木 啓 病床数 151 床
②所在地：富士市天間 1585 番地 代表 0545-71-3370
③診療科：精神科、心療内科
④主な届出受理等：精神科救急入院料 1、精神療養病棟入院料、精神科デイ・ケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）、日本医療機能評価機構認定（3rdG:Ver. 1.1 精神科病院）

(2) 医療活動

- ①精神科救急事業は例年通り迅速に対応が図られている。
- ②長期入院患者に対してクロザリル導入を図った。
- ③認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じての情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。医療連携協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、関係機関からの意見をアンケート形式で確認し、書面開催とした。
- ④院内の事故、高リスクの事例に対して、有効な再発防止策の立案と確実な評価が可能となることを目指し、検討体制を整備した。
- ⑤富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を図っている。
- ⑥摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。
- ⑦うつ・自殺対策の取組みとして、紹介システムの再周知をしている。自殺未遂者支援ネットワークの構築を進めている。
- ⑧クリニカルパスについては運用に留まり、効果的とする検討を行った。

(3) 施設設備の整備状況

- ① コージェネレーション設備の更新を行った。
- ② A棟病室空調機器の入替えを行った。
- ③ B棟1階空調機器の入替えを行った。
- ④ 災害備蓄品（アルファ米・保存水等）の更新を行った。

(4) 地域貢献活動

- ①公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力を行った。
- ②初期研修医及び看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士・公認心理師の各実習生を受入れた。
- ③公的機関や地域企業のメンタルヘルス分野での協力を行った。
- ④「天間ふれあいの日」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。天間地区文化祭、天間梅まつり等の福祉推進事業も中止となった。

- ⑤「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進している。
- ⑥富士市医師会や職能団体事業へは、人的派遣など協力している。
- ⑦富士市地域防災計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。

(5) その他の活動

- ①「事業継続マニュアル」が実行可能となるよう修正を重ねている。安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練を実施しており、更なる情報提供の方法を検討している。
- ②働き方改革関連法の施行に伴い取り組みを検討し、有給休暇取得を促す等の活動を実施した。
- ③院内研修については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合研修を中止・延期せざるを得ない期間があった。e-ラーニングおよび各種の研修プログラムを小規模で開催できる「出張院内研修会」の体制を整備する等の対策により、必須研修を開催し、院内研修の機会を確保することができた。
- ④「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、「倫理的問題が潜んでいる場面」のポスターを掲示し、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
- ⑤実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成は「ステップアップ活動」への取り組み等を通じ、一定の成果を収めた。

3. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ①管理者：石田 孜郎
- ②所在地：富士市本町1番2-201号 代表 0545-64-7655
- ③診療科：精神科、心療内科
- ④主な届出受理等：精神科デイ・ケア（小規模）、精神科ショート・ケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

- ①待機状況により新患枠を増やし迅速に受け入れを工夫努力したが、一日当たりの患者数増加には至らなかった。
- ②鷹岡病院P S Wの応援があり多職種間連携が強化され、就労支援、施設入所、家庭内問題等の相談に十分に対応することができた。
- ③訪問看護は利用者の変動と利用者個性にかかわる対応の難易もあり、利用者の満足度の更なる向上には至らなかった。
- ④デイケアにおいては季節を感じる行事として「日本開催のオリンピックを実感できる活動」を計画したが、延期となり実践できなかった。
- ⑤発達障害の診断プログラムは実施可能な準備が終了した。ホームページに載せ、次年度に本格的に実施する。

(3) 施設設備の整備状況

- ①デイケア室内の喫煙室のリフォームは、コロナ禍での業者の出入りによる感染の危険性を極力排除するため、次年度に持ち越した。
- ②外来処置室の床清掃を実施した。
- ③加湿（冬季）・消臭（通年）装置の配備はコロナ禍では換気による影響が大きく機器選択や設置場所に困難があり実施できなかった。コロナ終息後に改めて検討することとした。

(4) その他の活動

- ①外部研修での情報をクリニック会議等でフィードバックした。
- ②ISO9001（令和元年度で終了）の効果的運用を図るため、品質目標の設定及び達成度の評価を実施した。
- ③ホームページに休診日のお知らせ、他医療機関からのデイケア受け入れなど、積極的に情報を発信した。
- ④他医療機関からの患者診察、デイケア受け入れの依頼に関して迅速柔軟に対応した。

入退院及び在院患者数

定床数：151 床

	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	期中1日当
鷹岡病院	87	241	228	100	34,088 (33,860)	93.4

延べ数()内は、保健所報告数(退院当日を含まない)

外来取扱患者数

	外 来		デイ・ケア他		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	22,596	76.9	5,559	24.3	28,155	95.8
富士メンタルクリニック	12,426	42.3	2,783	11.9	15,209	51.7

	訪問看護		作業療法(再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	700	2.4	6,989	24.3
富士メンタルクリニック	95	0.3		

延べ数は、同日再診を含まない。

以上

V. 医療活動

〔 沼津リハビリテーション病院 グループ 〕

1. 概 要

令和2年度、新型コロナウイルスという未知の感染症に全世界が震撼し、特に医療業界では通常医療をも脅かされかねない状況であった。当院においても現状を維持継続することにとどまり、感染対策に日々追われる一年間であった。

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。

療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。

今年度新たに当院を含む5医療機関において感染対策にかかる地域連携協定を締結、合同カンファレンスや認定看護師による指導の機会を得ることができた。

2月に医師1名が減となり、経営に大きな影響を与えた。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106 床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

院内調整会議や関係機関との連携に努め、FIM の改善や在宅復帰率の向上については入院料施設基準を維持することができたが、病棟目標とした病床稼働率95%には届かなかった。急性期病院からの入院受入に際しては1週間程度の個室対応を実施し、感染防止対策を講じた。

② 医療療養病棟の機能改善

医療区分2及び3の患者受入割合を維持しながらも、回復期非対応や在宅からの患者受入についても臨機応変に取り組んだ。

(3) 施設設備の整備

省エネ対策として、院内照明のLED化工事を行った。CTの更新、コバスh232プラス（Dダイマー、トロポニンT測定に使用）の新規購入の他、昨年度からレンタルしているコンテナハウスとあわせ、正面玄関にサーマルカメラを設置して、発熱者の導線分離など感染防止対策を講じた。外構工事等については継続課題とした。

(4) 地域貢献活動

新型コロナ対策への協力として、軽症者宿泊施設オンコール体制に協力することとしたが対象者なく実施には至らなかった。その他、例年通り一次救急当番医への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、今年度より静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業に参画し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。救護病院の体制整備については新たに委員会を設置し、防災委員会と連携しながら体制整備に向けて始動した。

(5) その他の活動

人材確保については常に課題として取り組んでいるが十分な結果は得られていない。特に医師1名の減員による経営への影響は大きく、急務となっている。働き方改革については、法人として当座の対応は施したが、残る課題も多い。院内情報システムの検討についてはデジタル化に向けた国の方向性を見据えながら検討していく。災害対策については、緊急時の連絡手段のひとつとしてメールの一斉配信を計画、整備を進めている。

3. 訪問看護ステーションうしぶせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

感染防止に細心の注意を払いながら地域における関係機関との連携に努め、自宅での看取りなどの希望にも可能な限り対応した。5 人の看護職員により 24 時間緊急対応を継続した。また、今年度小児の訪問も実施した。

(3) 施設設備の整備

感染対策補助金を活用し、休憩室エアコンの更新を行った。

(4) 地域貢献活動

看護学校等の実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

入退院及び在院患者数

(定床：106 床)

入 院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1 日当 (人/日)
医 療	90	225	221	94	32, 995	90. 4

外来取扱患者数

外 来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1 日当	期中延	1 日当	期中延	1 日当 (人/日)
8, 043 人	33. 0	5, 278	17. 1	19	1. 3

訪問看護ステーションうしぶせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1 日当 (人/日)
医 療	2, 040	6. 6
介 護	3, 892	12. 5
計	5, 932	19. 1

以上

VI. 福祉活動

〔 本部・社会復帰事業部 〕

1. 概要

令和 2 年度は、(1) コスト意識の浸透 (2) 事務処理の効率化 (3) 内部管理体制の充実、(4) ガバナンス (企業統治) の充実・強化 の 4 項目を重点目標と掲げ、環境の変化に対応できるよう意識変革を図ってきた。

(1) コスト意識の浸透に関しては、人件費コスト削減を狙いに、適正な職員配置による定員制の定着化に向けた取り組みを主な施策としたが、事業所ごとにバラツキが見られ、法人全体では職員数が増加している。(2) 事務処理の効率化に関しては、特に給与に係る勤怠管理のシステム化に向け、業者との折衝を重ねているが未だ検討段階であり、次年度への持ち越しとなった。(3) 内部管理体制の充実に関しては、時代の要請に応じて就業規則及び給与規程の改訂を実施した。(4) ガバナンス (企業統治) の充実・強化に関しては、諸問題に対して迅速に組織的な対応が実施され、自浄作用が働いている。

福祉サービス事業部門も、年度初めから新型コロナ感染拡大による事業の縮小や中止により、当初の目標や例年実施していた事業部全体の企画の中止を余儀なくされ、利用者・職員ともに「困惑」の 1 年となった。その中でも各事業所が、いち早く変化に対応し長期に止めることなく事業運営が出来たのは、何より職員の「団結力」であった。コロナ禍の影響もあり、各事業所ともに利用者の減少がみられるが、利用者支援と運営の安定化の両輪をしっかりと動かしていきたい。

2. 本部事務局

(1) コスト意識の浸透

① 各費用項目の見直し

見積もり合わせの徹底や廉価の物への代替等によりほぼ定着化している。

② 定員制の定着化

事業所ごとにバラツキが見られ、法人全体では職員数が増加している。

(2) 事務処理の効率化

① 事務処理内容の見直し、特に② 給与明細の電子化に向けた準備に関しては、給与に係る勤怠管理のシステム化と位置付け、業者との折衝を重ねているが未だ検討段階である。

③ 個々人の自己啓発に向けた環境整備に関しては、新型コロナ感染防止の観点から出張等を抑制したため環境整備が不十分であった。

(3) 内部管理体制の充実

① 内部監査の計画的な実施に関しては、当初 8 月実施を予定していたが、新型コロナ感染防止の観点から取りやめた。

② 時代の要請に応じて、下記内容の就業規則及び給与規程の改訂を実施した。

- ・ 準職員の定義を明確化した。
- ・ 役付に副部長職を設けた。

- ・時間単位での看護・介護休暇が取得可能となった。
- ・非常勤職員との不公平感をなくすため、常勤職員が遅刻、早退、外出した場合、その時間相当の賃金を支払わないこととした。

(4) ガバナンス（企業統治）の充実・強化

① コンプライアンスに対する意識強化

諸問題に対して迅速に組織的な対応が実施され、自浄作用が働いている。

② 出勤簿への適切な記載

適切に実施されていて、定着化が進んでいる。

(5) その他

① セジュール新大橋収益事業の早期黒字化

10 部屋に対して、8 部屋が稼働している。

② 遊休資産（特に静浦ホテルの跡地）の効率的運用

借り手、買い手がなく効率的な運用が行われていない。

3. 社会復帰事業活動

(1) 相談支援事業

各市町からの委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・いとう・ひまり（なかせ三島分室から令和2年4月開設）の5事業所で実施。引き続き計画相談は市町担当者等を経由し随時新規の依頼が入り、継続的な支援も含め可能な限り調整し対応した。特に今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、これまで以上に直接的な面接・訪問等による支援を考え直す機会となった。今後は委託相談・指定一般（地域移行支援）の事業所内での役割分担・調整について、各市町で本格的に動き始めた基幹相談支援センターとの連動を意識した取り組みが必要となる。

令和元年7月に正式雇用となったピアスタッフについては、普及啓発的な位置づけともなる各関係団体等からの講師依頼や沼津中央病院内での活動の継続と並行し、ピアの特性を活かした個別支援に徐々に比重を置く業務内容を意識した。

(2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターいとうの2箇所で実施。両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、清掃活動などの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組んできた。

また、地域行事への参加やピア活動への協力、ボランティアの受け入れなど、地域に関われたセンター運営を行った。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の懸念から休館、時間短縮、利用者の制限等で対応することもあり全体的に利用者数は減少となった。

コロナ禍で新たな生活様式が求められる中、憩いの場及び仲間づくりの場などの機能が果たせるよう創意工夫し、ピア活動やボランティア育成にも努めていく。

(3) 共同生活援助事業

グループホームコーポ狩野・はまゆう寮・カーサ岡宮・ふじみ・ふじみⅡの5か所で実施。今年度は新型コロナウイルスの影響で、利用者への外出泊の自粛・日中活動先の休止や時間短縮に伴うグループホーム内での過ごし方の工夫・家族への面会制限など、例年と違う対応を手探りで行った。共同生活の場所は、クラスターが発生しやすい環境であるため感染防止

の徹底に努めた。活動が縮小したことにより、生活への満足度が下がり、ストレスを感じやすい生活環境であった。そのため、グループホーム内での過ごし方の工夫や体調管理に努めた。

(3) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3ヵ所で就労継続支援B型事業を実施。昨今、障害者雇用への支援施策が強化され各地域にも様々な支援事業所が出来ており、その中で選ばれる事業所となるよう、地域や利用者のニーズをきちんと把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、休業や時間短縮を行った他、各授産製品の対面販売の中止・店内飲食の中止等、都度対応を迫られる状況が続いた。日中の居場所としての機能も果たしていることから、安心して利用いただけるよう感染防止対策を日々模索しながら事業継続に努めた。今後も利用者の確保・施設外就労の充実・一般就労への支援強化・利用者の家族と本人の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者を選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

地域貢献活動

- (1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- (2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- (3) 沼津市、富士市、伊豆の国市、長泉町から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- (4) 伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。
- (5) 静岡県精神保健福祉士協会から委託を受け、静岡県精神障害者雇用推進アドバイザーとして活動した。

相談・訪問件数（延件数）

（令和2年4月～令和3年3月）（単位人）

	来 所	電 話	訪 問	その他	合 計
ゆめワーク	597	1,226	783	2,061	4,667
なかせ	280	2,093	855	2,964	6,192
ひまり	149	705	691	1,884	3,429
いとう	1,171	4,197	1,095	3,876	10,339
ほっと	38	1,296	157	1,317	3,402
合 計	2,235	9,517	3,581	12,102	28,029

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和2年4月～令和3年3月）（単位人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめ	128	56	106	89	72	107	101	88	86	83	78	113	1,107
いとう	116	85	179	112	81	154	171	145	170	161	171	206	1,751
合計	244	141	285	201	153	261	272	233	256	244	249	319	2,858

グループホーム利用状況

(令和3年3月31日現在)(単位人)

施設名	定員	出身市町												合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	静岡	熱海	伊豆	湯河原		
ふじみ	11	5	1		2									8
ふじみⅡ	5							1						1
カーサ岡の宮	10		3	2			1	1				1		8
はまゆう	9		3	1		2	2			1				9

グループホームコーポ狩野利用状況

(令和2年4月～令和3年3月)(単位人)

施設名	定員	期首入所者数	新規入所者数	退所者数	期末入所者数
コーポ狩野	20	16	1	0	17

就労支援事業所かのん利用状況

(令和2年4月～令和3年3月)(単位人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	52	51	51	51	49	50	50	49	49	49	47	46	
開所日数	24	22	25	24	21	23	26	22	23	22	21	25	278
実人数	48	49	50	47	47	48	48	46	46	45	43	42	
延人数	467	424	506	471	434	484	569	484	506	490	431	524	5,790
1日平均	19.5	19.3	20.2	19.6	20.7	21.0	21.9	22.0	22.0	22.3	20.5	21.0	20.8

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況(令和2年4月～令和3年3月)(単位人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	39	36	36	35	34	34	34	34	33	33	33	33	
開所日数	24	18	26	25	22	24	27	23	25	23	22	26	285
実人数	28	22	21	23	21	24	23	23	21	22	23	23	
延人数	326	246	299	282	248	279	329	274	311	287	276	319	3,476
1日平均	13.6	13.7	11.5	11.3	11.3	11.6	12.2	11.9	12.4	12.5	12.5	12.3	12.2

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(令和2年4月～令和3年3月)(単位人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	26	23	23	24	25	26	28	28	28	28	27	27	
開所日数	21	18	22	21	17	20	22	19	20	19	18	23	240
実人数	25	25	22	23	24	24	26	26	26	26	25	24	
延人数	346	308	330	287	247	291	355	299	319	290	273	346	3,691
1日平均	16.5	17.1	15.0	13.7	14.5	14.6	16.1	15.7	16.0	15.3	15.2	15.0	15.4

以上

Ⅶ. 地域貢献活動

〔１〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R2. 8. 18	静岡県合同庁舎	精神障害者の障害特性と支援技法	澤 野 文 彦	静岡県精神保健福祉センター
9. 10	Online（プラサヴェルデ）	「Real World Data の活用と意義」	杉 山 直 也	ヤンセンファーマ株式会社
10. 6	Web 開催（沼津中央病院）	精神障害者の退院後支援に関する研修	澤 野 文 彦	栃木県障害福祉課
10. 13	静岡福祉大学	精神科病院における PSW の業務と実習	澤 野 文 彦	静岡福祉大学
10. 17	三島市商工会議所	認知症と地域連携	澤 野 文 彦	静岡県訪問看護事業協会
10. 29	ふじのくに千本松フォーラム プラサヴェルデ	統合失調症患者の地域生活を考える会 ・「治療継続における LAI 製剤の有用性(仮)」 ・「コロナ禍における精神科訪問看護と外来診療の現状と課題」	長 谷 川 花	大塚製薬株式会社
11. 20	千本プラザ	地域で支える精神障害者への対応方法	澤 野 文 彦	千本地域包括支援センター
12. 4	Web 講演会	精神科救急におけるうつ病治療の実際	長 谷 川 花	大日本住友製薬株式会社 ファイザー株式会社
R3. 1. 20	Web 発信（リバーサイドホテル）	「にも包括」と「精神科救急」～政策動向と医療現場に求められる役割～	杉 山 直 也	エーザイ株式会社
2. 19	Web 開催（沼津中央病院）	精神障害者の障害特性と支援技法	澤 野 文 彦	富山県精神保健福祉士協会
2. 24	浜松市勤労会館	精神障害者の障害特性と支援技法	澤 野 文 彦	浜松市精神保健福祉センター
3. 5	ふじのくに千本松フォーラム プラサヴェルデ	「未来志向の急性期治療～レキサルティの可能性～」	長 谷 川 花	大塚製薬株式会社
3. 12	Web 開催（沼津中央病院）	措置入院者等退院後支援の実際	澤 野 文 彦	静岡県障害福祉課
3. 17	Web カンファレンス	「コロナ禍におけるうつ病関連の話題」	奥 義 起	武田薬品工業株式会社 ルンドベック・ジャパン株式会社

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R2. 10. 15	三島トラストビルディング	転倒予防研修	西 島 勇	エーザイ株式会社
R3. 1. 9 2. 6	WEB 研修会	研修・開発支援講座～臨床研修実践者に聞いてみよう～	西 島 勇	静岡県理学療法士会 研究開発支援専門部会

訪問看護ステーションうしぶせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R2. 10. 16	千本プラザ 多目的ホール	元気なシニアのための“すいすい” 動作講座(家でできる体操を覚えよう！)	鈴 木 奏 恵	沼津市長寿福祉課

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R2. 10. 13	城東保健福祉エリア複合棟	ピアサポート活動について	鈴木 伸 二 石 川 淳 山 崎 将 展	静岡市自立支援協議会 地域移行支援部会
R3. 2. 24	オンライン	静岡市ピアサポート勉強会 フォローアップ活動	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡市自立支援協議会 地域移行支援部会

〔２〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼 津 中 央 病 院	地方公務員災害補償基金静岡県支部	杉 山 直 也
	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
	〃	長 谷 川 花
	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
	名古屋国税局	坂 晶
	(福) 静香会 悠雲寮	浅 倉 博 幸
	(福) 野菊寮	浅 倉 博 幸
	(福) 静香会 みのり工房	浅 倉 博 幸
	(福) 宏寿会 遊法苑	伊 藤 慶
	(福) 春風会 高尾園	道 部 晃
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	静岡県	志 澤 容 一 郎
	静岡県警察本部	志 澤 容 一 郎
	沼津工業高等専門学校	志 澤 容 一 郎
鷹 岡 病 院	(株) 東芝キャリア	高 木 啓
	(株) ジーエイチクラフト	高 木 啓
	三生医薬(株)	高 木 啓
沼津リハビリテーション病院	(福) 信愛会 んまづホーム	杉 山 元 信
	(福) 信愛会 和みの郷	杉 山 元 信

〔３〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	静岡県立大学 看護学部
	日本福祉大学
	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科
	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科
	順天堂大学 保健看護学部
	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校
	静岡県立看護専門学校
	沼津市立看護専門学校

	御殿場市医師会附属御殿場看護学校 日本精神科看護協会
鷹 岡 病 院	静岡大学大学院 人文社会科学研究科 静岡英和学院大学 人間社会学部人間社会学科 静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科 健康科学大学 健康科学部福祉心理学科 国際医療福祉大学 保険医療学部作業療法科 専門学校富士リハビリテーション大学校 作業療法学科
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科・言語聴覚学科 常葉大学 健康科学部静岡理学療法学科 専門学校白寿医療学院 理学療法学科 専門学校富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 静岡医療科学専門学校 理学療法学科 多摩リハビリテーション学院専門学校 理学療法士学科
訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 公益社団法人 静岡県看護協会 静岡県訪問看護ステーション協議会
社 会 復 帰 事 業 部	静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科 聖徳大学 通信教育部心理・福祉学部社会福祉学科

〔４〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 御殿場市医師会附属御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	鈴木 和 野口 信彦 麻場 英聖 山田 まゆみ 飯塚 香織 牛島 一成 飯塚 香織 今井 亮太 麻場 英聖
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校	葛城 芳弘 葛城 芳弘
あ た み 中 央 ク リ ニ ッ ク	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 JA 静岡厚生連するが看護専門学校 健康科学大学	曾根 満寿代 久保 伸年 渡辺 睦子 曾根 満寿代 水野 拓二 山口 雅弘

	日本福祉大学	山口 雅弘
富士メンタルクリニック	富士市立看護専門学校	鈴木 順一
沼津リハビリテーション病院	専門学校白寿医療学院 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 専門学校白寿医療学院	長友 秀樹 豊永 美幸 西島 勇
社会復帰事業部	沼津市立看護専門学校	青木 大輔 山下 圭美

〔５〕 関連諸団体の活動 （管理者のみ）

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	日本精神科救急学会	理 事 長	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員 長	杉 山 直 也
	静岡県精神保健福祉協会	評 議 員	杉 山 直 也
	沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	委 員	杉 山 直 也
	日本医療評価機構 認定病院患者安全推進協議会	委 員	杉 山 直 也
	一般社団法人 日本自殺予防学会	理 事	杉 山 直 也
鷹 岡 病 院	全国精神保健福祉連絡協議会	理 事	石 田 多 嘉 子
	静岡県精神保健福祉協会	会 長	石 田 多 嘉 子
	静岡県精神科病院協会	副 会 長	石 田 多 嘉 子
	しずおか精神障害者スポーツ推進協議会	会 長	石 田 多 嘉 子
	静岡県障害者スポーツ大会	副 会 長	石 田 多 嘉 子
	静岡県障害者スポーツ協会	評 議 員	石 田 多 嘉 子
	認知症のひとと家族の会静岡支部	顧 問	高 木 啓
	富士市医師会	監 事	高 木 啓
	ユニバーサル就労を拓ける会	顧 問	高 木 啓

〔６〕 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
DPAT 運営協議会	委 員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉 山 直 也
措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉班	杉 山 直 也
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	〃	杉 山 直 也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	〃	杉 山 直 也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉室	杉 山 直 也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
〃	〃	〃	長 谷 川 花
沼津市自殺対策行動計画策定懇話会	委 員	沼津市健康づくり課（保健センター）	杉 山 直 也

清水町自殺対策推進連絡協議会	委 員	清水町健康福祉課	杉 山 直 也
駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	委 員	駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	杉 山 直 也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	杉 山 直 也
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	長 谷 川 花
静岡県警察本部職場復帰相談医	相 談 医	静岡県警察本部	志 澤 容 一 郎
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	委 託 医	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
裾野市老人ホーム入所判定委員会	委 員	裾野市福祉事務所 社会福祉室	坂 晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市福祉事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶
小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	小山町福祉事務所	坂 晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町福祉事務所	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町福祉事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町福祉事務所	坂 晶
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	麻 場 英 聖
〃	〃	〃	澤 野 文 彦
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
沼津市障害支援区分判定審査会	会 長	沼津市	澤 野 文 彦
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	部 会 長	沼津市	澤 野 文 彦
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	委 員	東部健康福祉センター	久 野 満 津 代
静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー事業	委 員	静岡県	平 井 智 未
静岡県デイケア連絡協議会	理 事	静岡県	小 野 剛

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
医道審議会医師分科会	医 師 分 科 委 員	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部	石 田 多 嘉 子
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
〃	〃	〃	高 木 啓
静岡県精神保健福祉審議会	会 長	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協 議 員	静岡保護観察所	高 木 啓
静岡地方労災医員	医 員	静岡労働局	高 木 啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委 員	静岡県精神保健福祉センター	高 木 啓
富士市生活保護法審査会	委 員	富士市福祉こども部福祉総務課	石 田 多 嘉 子
富士市老人ホーム入所判定委員会	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	副 委 員 長	富士市保健部介護保険課	高 木 啓
〃	委 員	〃	水 野 拓 二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市差別解消支援協議会	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市自殺対策推進会議	会 長	富士市健康政策課	高 木 啓
〃	委 員	〃	久 保 伸 年
富士宮市認知症医療研究会	委 員	富士宮市福祉総合相談課	高 木 啓
静岡市精神医療審査会	委 員	静岡市こころの健康センター	高 木 啓
富士圏域自立支援協議会	構 成 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委 員	富士保健所	高 木 啓

富士圏域措置入院適正運営協議会	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委 員	富士市教育委員会	高 木 啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委 員	富士市立中央病院	高 木 啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委 員	富士宮市立病院	高 木 啓
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県精神保健福祉センター	曾 根 満 寿 代
〃	〃	〃	川 島 茉 己
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部 会 長	富士健康福祉センター	山 口 雅 弘
〃	構 成 員	〃	曾 根 満 寿 代
〃	〃	〃	川 口 恭 子
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	富士警察署	久 保 伸 年
富士市障害支援区分認定審査会	委 員	富士市福祉こども部福祉総務課	山 口 雅 弘
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委 員	富士宮市介護障害支援課	山 口 雅 弘
富士宮市成年後見制度体制整備検討会	委 員	富士宮市介護障害支援課	山 口 雅 弘

沼津リハビリテーション病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	委 員	沼津市介護保険課	長 友 秀 樹
〃	〃	〃	岩 本 和 也
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西 島 勇
沼津市障害支援区分判定審査会	委 員	沼津市障害福祉課	鈴 木 亮 太

訪問看護ステーションうしぶせ

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	委 員	沼津市介護保険課	松 川 香 織
〃	〃	〃	綿 引 里 美
沼津市高齢者保健福祉計画策定懇話会	委 員	沼津市長寿福祉課	松 川 香 織

社会復帰事業部

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市障害者自立支援協議会	副 会 長	沼津市	牛 島 聖 美
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	鈴 木 伸 二
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	熱海健康福祉センター	秋 津 崇 史
沼津市障害者自立支援協議会相談部会	部 会 長	沼津市	鈴 木 伸 二
沼津市障害者支援区分認定調査	調 査 員	沼津市	内 藤 治 子
熱海市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	熱海市	鈴 木 伸 二
伊東市障害支援区分判定等審査会	審 査 委 員	伊東市	鈴 木 伸 二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部 会 長	熱海市・伊東市	秋 津 崇 史
伊豆の国市障がい者計画等策定会議	委 員	伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員・運営委員	伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部 会 長	伊豆の国市	小 山 千 菜 美
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊豆市・伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	池 田 友 美
〃	〃	〃	小 山 千 菜 美

伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	室 山 美 希
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青 木 大 輔
裾野市障害支援区分判定審査会	審 査 委 員	裾野市	杉 山 智 子
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部 会 長	富士市	田 尻 ゆ き
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝 又 美 智 子
長泉町障害者支援区分認定調査	調 査 員	長泉町	新 庄 裕 那

〔 7 〕 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹岡病院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	静岡県地域リハビリテーション強化推進事業 静岡県地域リハビリテ ーション支援センター
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業 静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー業務

以上

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和3年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	14		5				14		5
看護職	112	4	10	1	1	1	113	5	11
介護職	26	5	2	2	1	－1	28	6	1
医療技術職	21	2	4	2	－2	－1	23		3
福祉職	11						11		
事務職	17	2		－1		1	16	2	1
労務職	13	2	4	5	－2	－1	18		3
合 計	214	15	25	9	－2	－1	223	13	24

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	4	1	1				4	1	1
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	3			－1			2		
合 計	10	1	1	－1			9	1	1

あたみ中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	2						2		
事務職	1						1		
合 計	4						4		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	10			－1	1		9	1	
合 計	10			－1	1		9	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8	1	2	－1		－2	7	1	
看護職	43	1	10	2	3	2	45	4	12
介護職	19	1	4	2	1	－1	21	2	3
医療技術職	16		3			1	16		4
福祉職	11			1			12		
事務職	12						12		
労務職	14		2	－2			12		2
合 計	123	3	21	2	4		125	7	21

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1		2			－1	1		1
看護職	3						3		
医療技術職	2						2		
事務職	3		1			－1	3		
合 計	9		3			－2	9		1

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	4		19	－1		－3	3		16
看護職	41	1	10	－1	1		40	2	10
介護職	35		8	1		－2	36		6
医療技術職	51		11	1		－2	52		9
福祉職	4			2			6		
事務職	13		1	－2			11		1
労務職	8		9	－2		－1	6		8
合 計	156	1	58	－2	1	－8	154	2	50

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	5					1	5		1
医療技術職	1						1		
合 計	6					1	6		1

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	8		3	－3			5		3
合 計	8		3	－3			5		3

サポートセンターいとう

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			2			1			3
福祉職	3						3		
合 計	3		2			1	3		3

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4					1	4		1
労務職						1			1
合 計	4					2	4		2

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合 計	4						4		

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職				3			3		
合 計				3			3		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
事務職					1			1	
合 計		1			1			2	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職						1			1
労務職			1						1
合 計			1			1			2

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
合 計			1						1

グループホームふじみⅡ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
合 計			1						1

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職		2	2					2	2
福祉職	2						2		
合 計	2	2	3				2	2	3

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	5		1	－1			4		1
労務職			4						4
合 計	5		6	－1			4		6

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職						1			1
介護職		2	4		－1	－1		1	3
福祉職	2					1	2		1
合 計	2	2	4		－1	1	2	1	5

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	2					1	2		1
事務職			1						1
労務職			5			－1			4
合 計	2		7				2		7

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1						1		
事務職	10	1					10	1	
労務職	1						1		
合 計	12	1					12	1	

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	29	1	28	－2		－6	27	1	22
看護職	220	7	33	1	6	5	221	13	38
介護職	80	11	25	5	1	－4	85	12	21
医療技術職	92	2	18	3	－2	－2	95		16
福祉職	58		4	2		4	60		8
事務職	59	3	3	－4	1		55	4	3
労務職	36	2	25	1	－2	－2	37		23
合 計	574	26	136	6	4	－5	580	30	131

※管理者含む

以上